

# 市民文芸

## 短歌

阿南市文化祭秋季短歌誌上大会 選

- 入選 白の上衣シャツなどみんなな学校で黒く染  
めにき戦時の記憶 程野 茂
- 入選 ありのままわが身を映す三面鏡人にく  
みし顔も映すも 金本ひろみ
- 入選 猛暑日はハムスターも暑かると冷房つけ  
おき孫は登校 里和倭巳子
- 入選 誰も居ぬ実家に眠れる父母に供えん新米  
炊きたての香を 棚野 久子
- 入選 マスクをし手指消毒した日々をなつかし  
む日よ早く来て欲し 岡久 利永
- 入選 夜八時スマホで確かむお姉妹転ばぬ様  
にと気遣いながら 宮本久美子
- 入選 南へと向う機影か送り火の炎から眼を空  
に移せば 森岡 圭子
- 入選 訪う人もなき一夏海亀の浜の灯台た  
だ波しぶき 湯浅かや子
- 入選 一株のたわわに実る懸税金年で最後と言  
いつつ奉納 吉田 文恵
- 入選 大津波来ると言われる那賀川の河口歩け  
ば縮光り跳ぶ 佐坂 恵子

## 俳句

阿南市俳句連合会 選

- 雨粒の宿り艶ますぼたん芽  
境内の裏の太木囀れり  
春の月どこかでドアの閉まる音  
髭を剃る床屋無口や春の雨  
春コート昭和レトロの肩パット  
捨て鉢に何かものの芽五つ六つ  
下萌や用水ざらえカラコロと  
玄関の思わず寄りて春暖炉  
川べりを風吹くままに野火走る  
可憐さの裏に毒あり黄水仙
- 山野 賢治  
石井 政子  
加藤 和子  
笹田 知睦  
藤本 弘子  
萩原 陽子  
西改 幸  
小西 晴美  
中分 明美  
藤井李華女

## 川柳

阿南川柳会 田上鶴子 選

- 賑やかな街もコロナでしんとして  
かわいさも見えたり見えぬ夜目遠目  
お天氣の機嫌で動く老いの日々  
春うらら大地の調べ賑やかに  
穢土の世に咲いて可愛い冬すみれ  
エプロンから貰った匂が転げ出る  
どや顔に味の自慢を覗かせる
- 多田紀久代  
橋本 征介  
原 公美子  
佐藤つたえ  
西田 修身  
渡邊 浪漫  
高木 旬笑
- 一般応募  
しつかりと食べて笑って惚け防止  
鶏肉が油へダイブする夕餉  
春嵐むかし語りの恋ひとつ
- 島尾美津子  
武田 敏子  
仁井 信子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

- 東日本震災十周年感有り 市田 嘉則  
文明不及海狂顛 文明 及ばず海の狂顛  
避難心傷猶未痊 避難の心傷 猶お未だ痊えず  
治政徒争混迷裏 治政 徒らに争う混迷の裏  
脱燐延引後何年 脱燐の延引 後何年ぞ
- ※脱燐―放射能の完全処理

### 阿南椿自然園散索

高橋 静雄

- 春日乗晴上小丘 春日晴に乗じて 小丘に上れば  
白雲碧水映雙眸 白雲碧水 双眸に映ず  
濃紅淡白花争發 濃紅淡白 花争って発く  
樹下清吟物外遊 樹下の清吟 物外の遊

### 山徑に歩す

井関喜久子

- 紅雲櫻徑隨香歩 紅雲の桜徑 香に随いて歩めば  
翠竹風梢亂點清 翠竹の風梢 乱点清し  
忽聽鶯聲方睨眺 忽ち聴く鶯声の方に睨眺たるを  
山中四響促吟情 山中四に響いて 吟情を促す
- ※乱点―乱れ散る落花の乱点



【春にんじん(洋人参)】

徳島県は3～5月における出荷量が日本一。春にんじんは大型トンネルハウス内で乾燥した状態で生育するため、柔らかくて、甘い評判です。β-カロテンは外皮近くに多く、皮は薄く剥くか、皮ごとの調理がおすすめ。